

## 令和7年度病害虫発生予報第4号（8月予報）概要表

令和7年7月30日  
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 水稻（5月中旬までの移植）</u>		
（1）いもち病（穂いもち）		並
（2）紋枯病		やや多
（3）斑点米カメムシ類		多
<u>2 水稻（5月下旬以降の移植）</u>		
（1）いもち病（葉いもち）（穂いもち）		やや少
（2）紋枯病		並
（3）縞葉枯病		並
（4）ヒメトビウンカ		やや多
（5）セジロウンカ		並
（6）ツマグロヨコバイ		並
（7）斑点米カメムシ類		多
（8）フタオビコヤガ（イネアオムシ）（第4世代幼虫）	早	やや少
（9）イチモンジセセリ（イネツトムシ）（第2世代幼虫）		並
<u>3 大豆の播種前防除対策</u>		
（1）べと病		
（2）ハスモンヨトウ		
（3）ダイズサヤタマバエ		
（4）マメシンクイガ		
（5）シロイチモジマダラメイガ		
（6）吸実性カメムシ類		
<u>4 なし</u>		
（1）ハダニ類		やや多
（2）果樹カメムシ類		やや多
（3）シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）		やや多

### 表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>5 なす (夏秋栽培)</u>		
(1) 褐色腐敗病		並
(2) オオタバコガ		多
(3) ハダニ類		やや多
(4) アザミウマ類		やや多
<u>6 ねぎ (秋冬栽培)</u>		
(1) 黒斑病		並
(2) 軟腐病		やや多
(3) シロイチモジヨトウ		やや多
(4) ネギアザミウマ		やや多
(5) ネギハモグリバエ		多
<u>7 いちご (苗)</u>		
(1) 炭疽病		並
(2) ハダニ類		多
<u>8 茶</u>		
(1) 炭疽病		やや少
(2) 輪班病		やや少
(3) チャハマキ (第3世代幼虫)	遅	やや少
(4) チャノコカクモンハマキ (第3世代幼虫)		やや少
(5) チャノホソガ (第3世代幼虫)		やや少
(6) チャノミドリヒメヨコバイ		やや多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 並\*： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和7年度病害虫発生予報第4号（8月予報）

令和7年7月30日  
埼玉県病害虫防除所

1 水稻（5月中旬までの移植）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (穂いもち)	並	○7月中旬の発生量：－ □7月中旬の葉いもちの発生量：多（＋） □県予察ほ場での発生量：少（－） □5月1日～7月28日までの感染好適条件の出現日数28日（平年：51.8日）：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（－）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ <a href="#">参照1</a> ）を参考に防除対策を実施する。 ・上位葉に葉いもちの病斑が多いほど、穂いもちが発生しやすいため、注意深く観察して防除の有無や回数を判断する。
紋枯病	やや多	○7月中旬の発生量：並 □県予察ほ場での発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・水際部に初期発生を確認した場合は、幼穂形成期～乳熟期までに薬剤による防除を実施する。
斑点米 カメムシ類	多	○7月中旬の発生量：多 □畦畔・雑草地発生調査による1地点平均生息頭数74.3頭（平年19.7頭）：多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・イネカメムシについては7月23日発表の「注意報第3号」（ <a href="#">参照3</a> ）、他の斑点米カメムシ類については7月29日発表の「注意報第4号」（ <a href="#">参照4</a> ）を参考に薬剤による防除を実施する。 ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ <a href="#">参照1</a> ）を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する。			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照3：令和7年度病害虫発生予察注意報第3号「イネ、イネカメムシ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r7-3.html>

参照4：令和7年度病害虫発生予察注意報第4号「イネ、斑点米カメムシ類」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r7-4.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並\*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・多\*\*：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）（1/3）

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち) (穂いもち)	やや少	○7月中旬の発生量：並 □県予察ほ場での発生量：少（－） □5月1日～7月28日までの感染好適条件の出現日数28日（平年：51.8日）：並（±） □7月中旬のいもち病発生状況調査による発病地点率47.6%（平年44.0%）：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「病虫害診断のポイントと防除対策」（<a href="#">参照1</a>）を参考に防除対策を実施する。</li> <li>・防除所が発表する「いもち病（葉いもち）感染好適条件出現日数」（<a href="#">参照5</a>）を確認し、好適日が続いた場合は、ほ場をよく見回り早期発見に努める。</li> <li>・上位葉に葉いもちの病斑が多いほど、穂いもちが発生しやすいため、注意深く観察して防除の有無や回数を判断する。</li> <li>・常発地や感受性品種を作付している地域では、大型の斑点米カメムシ類との同時防除を検討する。</li> </ul>
紋枯病	並	○7月中旬の発生量：散見 □昨年の発生量：平年並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素肥料の過剰施用は、過繁茂となり発生を助長するため、適正な追肥を実施する。</li> <li>・水際部に初期発生を確認した場合は、幼穂形成期～乳熟期までに薬剤による防除を実施する。</li> </ul>
縞葉枯病	並	○7月中旬の発生量：並 □県予察ほ場での発生量：やや少（－） □本作型の地域では抵抗性品種の作付割合が高い（－） □8月のヒメトビウンカの予想発生量：やや多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「病虫害診断のポイントと防除対策」（<a href="#">参照1</a>）を参考にヒメトビウンカの防除対策を実施する。</li> <li>・被害株は感染源となるため、早めに抜き取り処分する。</li> </ul>
ヒメトビウンカ	やや多	○7月中旬の発生量：並 □県予察ほ場での発生量：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「病虫害診断のポイントと防除対策」（<a href="#">参照1</a>）を参考に防除対策を実施する。</li> </ul>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並\***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・ **多\*\*\***： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稲（5月下旬以降の移植）（2/3）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
セジロウンカ	並	○7月中旬の発生量：無 □5月中旬移植の7月中旬の発生量：多（+） □県予察ほ場での発生量：やや少（-） □5月1日～7月28日までの飛来予測日数3日（平年6.6日）：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・ほ場をよく見回り、早期発見に努める。
ツマグロヨコバイ	並	○7月中旬の発生量：並 □県予察ほ場での発生量：並（±） □本作型の地域では抵抗性品種の作付割合が高い（-） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持たない品種（「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」など）では多発しやすいので早期発見に努める。
斑点米カメムシ類	多	○7月中旬の発生量：やや多 □畦畔・雑草地発生調査による1地点平均生息頭数74.3頭（平年19.7頭）：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・イネカメムシについては7月23日発表の「注意報第3号」（ <a href="#">参照3</a> ）、他の斑点米カメムシ類については7月29日発表の「注意報第4号」（ <a href="#">参照4</a> ）を参考に薬剤による防除を実施する。 ・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ <a href="#">参照1</a> ）を参考に防除対策を実施する。
フタオビコヤガ（イネアオムシ）（第4世代幼虫）	発生時期 早  発生量 やや少	○7月中旬の発生量：無 ■7月24日現在の有効積算温度による第3世代成虫の予測発蛾最盛日7月23日（平年7月30日）：早（+） □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ <a href="#">参照1</a> ）を参考に防除対策を実施する。 ・第4世代幼虫が多発生すると被害が甚大になるため、ほ場での発生状況を観察し、発生が多い場合は薬剤による防除を実施する。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並\***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・ **多\*\*\***： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

## 2 水稻（5月下旬以降の移植）（3/3）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチモンジセセリ (イネツトムシ) (第2世代幼虫)	並	○7月中旬の発生量：無 □県予察ほ場での発生量：並(±) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・有効積算温度による第2世代幼虫孵化最盛期は7月17日と見られるため、防除適期は7月21日～7月24日である。既に防除適期を過ぎているため、発生ほ場では速やかに薬剤による防除を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する（縞葉枯病はヒメトビウンカ対象）。			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照3：令和7年度病害虫発生予察注意報第3号「イネ、イネカメムシ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r7-3.html>

参照4：令和7年度病害虫発生予察注意報第4号「イネ、斑点米カメムシ類」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r7-4.html>

参照5：いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況

[https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data\\_blastam.html](https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_blastam.html)

## 3 大豆の防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
べと病	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に適期防除を行う。 ・在来系統や県奨励品種の「里のほほえみ」は本病に罹病しやすいため、早期発見に努める。
ハスモンヨトウ	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)及び防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、適期防除を行う。 ・本年はフェロモントラップによる誘殺数が多いため、ほ場を注意深く観察し、発生を確認したら速やかに防除対策を実施する。
ダイズサヤタマバエ	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・開花終期～莢伸長期（開花始めから1～2週間後）を目安に防除を実施する。
シロイチモジマダラメイガ	・子実肥大初期～中期（開花始めから2～7週間後）を目安に防除を実施する。
吸実性カメムシ類	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・開花20～40日後を目安に防除を実施する。

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並\*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・多\*\*：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(＋)は助長または促進、(－)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

#### 4 なし

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
ハダニ類	やや多	○7月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・高温期は増殖が早いため、こまめに発生状況を確認する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
果樹 カメムシ類	やや多	○7月中旬の発生量：散見 □予察灯等による誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」( <a href="#">参照1</a> )を参考に防除対策を実施する。 ・雑草及び防風垣の着果性樹木（イヌツゲ、ヒバ類など）、モモの果実及び開花時のカンキツ類などにも飛来し寄生するので、同時期に防除を行う。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」( <a href="#">参照2</a> )を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。
シンクイ ムシ類 (ナシヒメ シンクイ)	やや多	○7月中旬の発生量：散見 □フェロモントラップによる誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」( <a href="#">参照1</a> )を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」( <a href="#">参照2</a> )を参考に、収穫前日数に注意して薬剤散布を行う。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

#### 表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並\***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・ **多\*\*\***： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 なす（夏秋栽培）

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
褐色腐敗病	並	○7月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・発病果実の早期発見に努め、見つけ次第切り取って園外で処分する。
オオタバコガ	多	○7月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ハダニ類	やや多	○7月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・高温期は増殖が早いため、こまめに発生状況を確認する。
アザミウマ類	やや多	○7月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	
<p><b>【共通注意事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。</li> <li>・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。</li> </ul>			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並\***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・ **多\*\*\***： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

6 ねぎ（秋冬栽培）

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒斑病	並	○7月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
軟腐病	やや多	○7月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	<ul style="list-style-type: none"> <li>多肥栽培では発生が助長されるため注意する。</li> <li>明渠等を設置し地表水の早期排水を行う。</li> </ul>
シロイチモジヨトウ	やや多	○7月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	<ul style="list-style-type: none"> <li>防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（<a href="#">参照2</a>）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。</li> </ul>
ネギアザミウマ	やや多	○7月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	<ul style="list-style-type: none"> <li>「病虫害診断のポイントと防除対策」（<a href="#">参照1</a>）を参考に防除対策を実施する。</li> <li>これから定植を行うものは、定植時の粒剤等により、初期防除を実施する。</li> </ul>
ネギハモグリバエ	多	○7月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	
<p><b>【共通注意事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。</li> <li>薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。</li> </ul>			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

表の見方について

- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- 並\***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- 多\*\***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

7 いちご（苗）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○7月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」( <a href="#">参照1</a> )を参考に防除対策を実施する。 ・胞子が飛散しないよう、チューブかん水など水滴の跳ね返りが少ない方法でかん水する。 ・被害株は見つけ次第、速やかに除去し、適切に処分する。
ハダニ類	多	○7月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い（+）	・高温期は増殖が早いいため、こまめに発生状況を確認する。
<p><b>【共通注意事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。</li> <li>・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。</li> </ul>			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並\***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・ **多\*\*\***： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

8 茶

病害虫名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	やや少	○7月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（－）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
輪斑病	やや少	○7月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（－）	
チャハマキ (第3世代幼虫)	発生時期遅 発生量やや少	○7月中旬の発生量：やや少 ■予察灯の第2世代成虫発蛾最盛日は7月2日(平年6月26日)：遅（－） □県予察灯への誘殺数：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノコカクモンハマキ (第3世代幼虫)	発生量やや少	○7月中旬の発生量：無 □県予察灯への誘殺数：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノホソガ (第3世代幼虫)	発生量やや少	○7月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：少（－） □フェロモントラップによる第2世代成虫の誘殺数：やや多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノミドリヒメヨコバイ	発生量やや多	○7月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・周辺雑草で繁殖するので除草を励行する。

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並\***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・ **多\*\***： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。  
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、  
周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正  
な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。  
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —

（令和7年5月1日～8月31日）

表の見方について

- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- **並\***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- **多\*\*\***： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和7年7月24日発表)

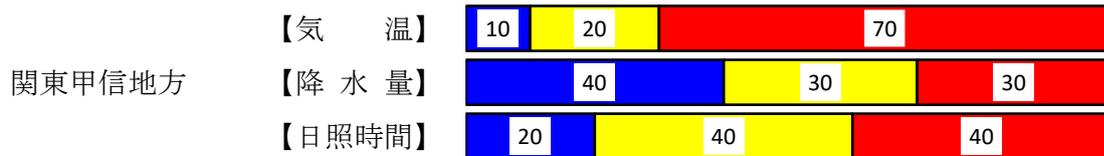
出典：気象庁ホームページ

([https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area\\_type=offices&area\\_code=110000.html](https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000.html))

<予報のポイント>

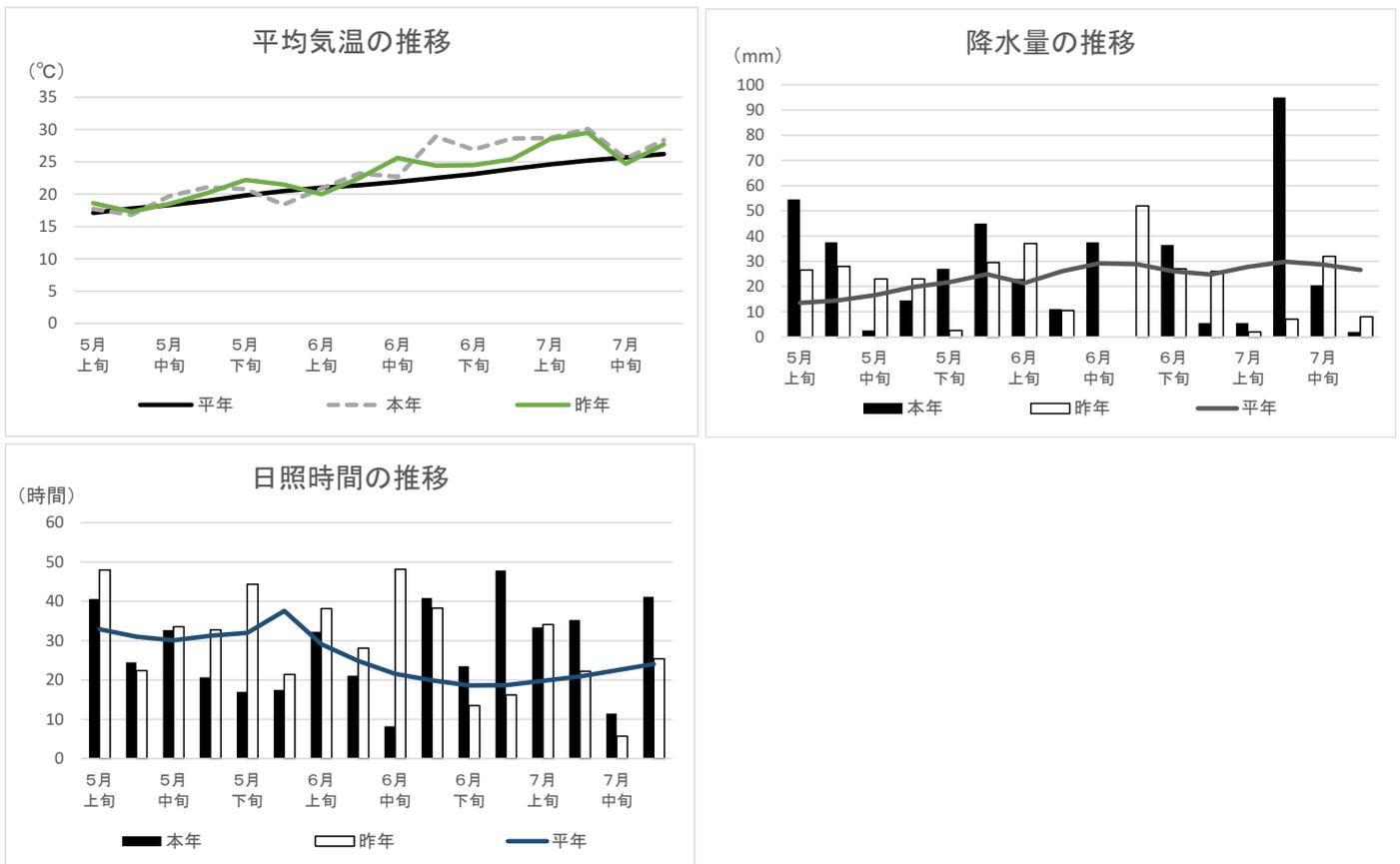
- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先  
 埼玉県病虫害防除所  
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784  
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663  
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp  
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>